

今年度の鳥類調査結果について

【調査方法】

洋上センサス調査 : 主に海鳥の生息状況を把握

定点調査 : 主に鳥類の渡りルートを把握

【調査時期】 冬季(1月～2月)

【調査位置】

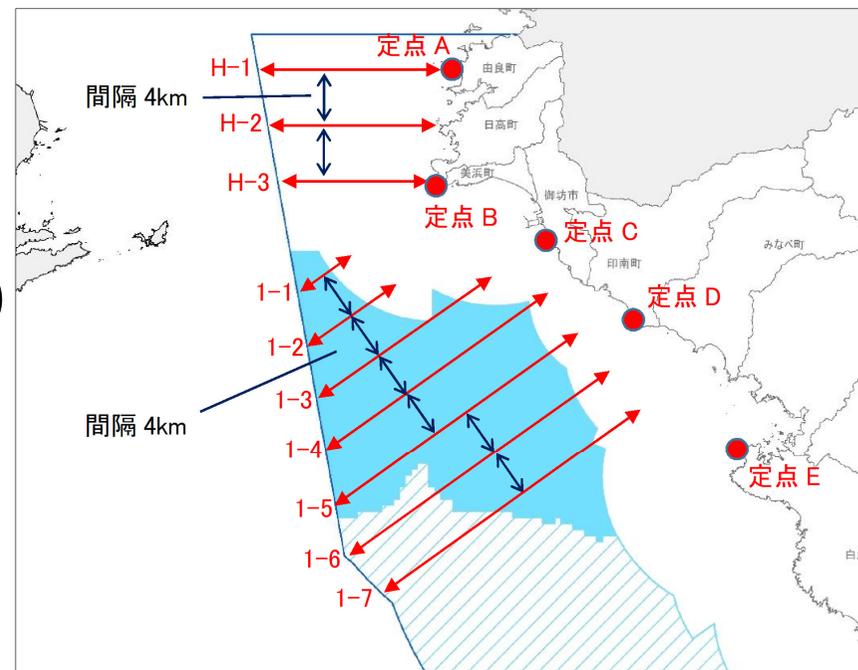
洋上センサス調査

- ・保全推奨エリア(H-1～H-3)

- ・調整エリア1(1-1～1-7)

定点調査

- ・定点A～E(5地点)



【結果概要】

◆洋上センサス調査

- ウミネコ、セグロカモメといったカモメ類を主に確認
- 保全推奨エリアでウミスズメ類を確認
- 保全推奨エリア、調整エリアで大きな差は見られず
- 冬季は海鳥の生息が少ない

◆定点調査

- 渡りは保全推奨エリアでチョウゲンボウ(西→東方向)とミサゴ(南→北方向)を1例ずつ確認
- 沿岸部近くの海面では早朝にカモメ類の移動、採餌を頻繁に確認
- その他、ヒメウ、ウミアイサの移動を確認
- 沿岸部ではハヤブサやミサゴを頻繁に確認



【確認種一覧】

No	種名	確認延べ個体数															重要種の選定基準			
		H-1	H-2	H-3	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	A	B	C	D	E	①	②	③	④
1	ウミウ													12	12					
2	ヒメウ											54		7	3	1			EN	
	ウ類						1					6	5	19		15				
3	クロサギ											1								VU
4	アオサギ													1	1					
5	ウミアイサ											30		2						
6	ミサゴ											1		2	1	3			NT	VU
7	トビ	2	5	2												2				
8	ハヤブサ												1			1		国内	VU	VU
9	チョウゲンボウ												1							
10	セグロカモメ	14	3	3		5	2	9	1	3	37	6		10	3	111				
11	オオセグロカモメ	2		1							11	10		3		30				
12	ウミネコ	75	4	4	6	4	10	3		4	8	80	3	11	2	125				※1
	カモメ類	25	11	3	55	6	4	3	1	1	1	41	15		700	90				
13	ウミスズメ類		3														※2		※3	
	13種	4種	4種	4種	1種	2種	3種	2種	1種	2種	3種	7種	4種	8種	6種	7種	1種	1種	4種	4種

注1)ウ類は、カワウもしくはウミウの可能性が高い
 注2)カモメ類は、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコの可能性が高い
 注3)ウミスズメ類は、カンムリウミスズメ、ウミスズメの可能性が高い

※1 ウミネコの繁殖コロニーがSIに選定されている
 ※2 カンムリウミスズメは国天に選定されている
 ※3 カンムリウミスズメはVUIに、ウミスズメはCRIに選定されている

【重要種の選定基準】

①「文化財保護法(昭和25年法律第214号)」により指定されている種
 国天：国指定天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号)」により
 国内：「国内希少野生動植物種」に指定されている種

③「環境省レッドリスト2019の公表について(環境省.2019年)」の掲載種
 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

④「保全上重要なわかやまの自然 - 和歌山県レッドデータブック - (2012年度版)」の掲載種
 VU：絶滅危惧2類 SI：学術的重要

鳥類調査【今後の予定】

引き続き、洋上センサス調査、定点調査を実施します。調査対象・位置は今年度と同じとします。調査時期は春季、秋季とし、詳細の日程は鳥類の繁殖や渡り時期にあわせて設定します。

なお、定点調査は和歌山県と阿南市を行き来するルートが想定されるため、隣接する阿南市側と同日にできるように調整する予定です。